

特別会計

〔質疑〕介護保険特別会計について、高齢者権利擁護に関する相談の件数がかなりふえているが、どのようにこれを把握して、対応しているのか伺いたい。

〔答弁〕相談件数353件のうち、虐待に関する相談が155件で、そのうち5件を虐待と認定している。

その内容は、介護放棄であり、うち1件については行政が介入し、強制的に施設に入所させた。また、ほかの4件については、引き続き地域包括支援センターが支援しているところである。

企業会計

〔質疑〕水道事業会計について、一昨年は3千762万8千円余、昨年は7千718万8千円が純損失となった。

この現状において、純剰余金の繰り越しが、本年3月末で1億7千300万円とかなり減少していることから、健全な

水道事業運営のため、水道料金の改定は検討しないのか伺いたい。

〔答弁〕水道事業の補填財源としての資金の残額が非常に減少している。

※答弁の一部を表にしました。

〔単位：円〕

	平成20年度	平成19年度	平成16年度
繰越利益剰余金	173,891,112	341,061,372	590,014,438
補填財源	165,146,843	196,048,162	181,147,109
資金残額	378,891,112	546,061,372	795,014,438

平成16年度と比較すると、4億1千600万円ほどの減少である。これは人口減、節水型電化製品の普及等々が要因となっている。水道料の収益が、平成19年度と比較すると3千88万3千190円、3・70%減少している。

平成16年度との比較では1億332万5千円、11・38%ほど

の減少と非常に落ちてきている。

そのような経営状況下で、水道事業は公営企業であるから、独立採算が求められるが、収益でもって経営をしていかなければならないので、今後種々検討してまいりたい。



決算審査特別委員会現地調査

〔質疑〕水道事業経営を圧迫する要因の一つとして供給原価が高いことが上げられる。つまり仙南・仙塩広域水道からの受水費が過大な投資によって高いことにある。

今後受水費が安くなる可能性がないのか伺いたい。

〔答弁〕現在、宮城県議会に

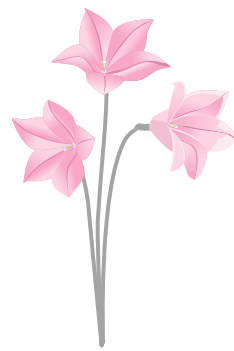
料金改定が提案されている。

その内容はこの5年間で仙南・仙塩広域水道事業としての収支計算を行い、基本料金について1立方メートルあたり、現行1千199円から43円引き下げられ1千156円、使用料金については、1立方メートルあたり現行65円から5円引き下げられ60円となり、平成22年度から平成26年度までの覚書を締結している。

これを白石市の受水費として試算すると、年間で約2千

700万円ほどの削減は図られる。

また、受水団体の会合等で市長が引き下げについて発言をしている。しかし、ダム建設費等に基づく元利償還金等を織り込んで計画しているの



平成20年度 一般会計・特別会計決算の状況

〔単位：円〕

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
一般会計	14,802,769,874	14,388,283,852	414,486,022
特別会計	7,601,038,687	7,297,966,362	303,072,325
国民健康保険	4,223,231,832	4,027,808,266	195,423,566
地方卸売市場事業	8,906,257	2,090,790	6,815,467
老人保健	492,230,529	468,375,508	23,855,021
介護保険	2,554,188,794	2,481,834,538	72,354,256
後期高齢者医療	322,481,275	317,857,260	4,624,015
合計	22,403,808,561	21,686,250,214	717,558,347

平成20年度 企業会計決算の収支状況

(消費税相当額を含む)〔単位：円〕

会計名	収益的収入	収益的支出
水道事業	882,998,307	948,955,860
下水道事業	840,664,066	893,689,644